
この恋が叶うまで

神山 純

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

この恋が叶うまで

【ZPDF】

Z5050D

【作者名】

神山 純

【あらすじ】

主人公、神山純一を中心にはじめられる物語。それは甘く切ない恋。誰もが通つたことのある道のお話し。ぜひ童心に返つてご賞味あれ。

序章（前書き）

拙い文章で書きます。少しづつ連載してこきます。ぜひ皆様の力を
分けてください。

序章

少し高い海沿いの道を僕は走る。
潮の香りを含んだ風が心地よく
頬を撫ぜる。

あの時の風はもう少し暖かかったかな?
昔を思い出し僕は少し微笑んだ。
そして同時に暖かな哀愁を漂わせながら
道を行く。

長い長い一本道だ。

2003年 7月

今年も暑い夏がやつて來た
近ごろ温暖化やらなんやらで
お偉いさんが騒いでるが、
そのせいいか?

この時の僕は12歳

中学校2年生の自分が初めて恋をした夏、
甘くて切ない恋の思い出だ。

僕は当時テニス部に入っていた。
中1の頃から始めたばかりだったが、
オレはこのスポーツが大好きだ。
だから特別にうまくは無いが、
部活だけは真面目にやっていた。

部活だけは？

と言ふ事は、モチロン日常生活は乱れまくりだ。

そんな学校生活だがとりあえず楽しくやっている。

「おはよ」

夏休みまであと2週間となつた今朝、爽やかな挨拶とともに

この教室に入つて来たのは

七瀬 三春

彼女は去年、東京から
引っ越しして来たばかりの
新米の福島県人だ

・・・かくゆうオレも

2年前に神奈川から

越して來たばかりなのだが、

「あれっ？2人の邪魔しちゃいました？」
と、悪戯な笑みを浮かべながら

唐突に三春は言つた。

こいつは時々ハツとするような事を言つ。

普段は、ホントにこいつが東京に？
と疑いたくなる程ボケててお人好しなのに
実は鋭くて、自分の心なんか

見透かされてる

つて思つてしまつ。

三春の一言に本氣で否定をするのは、

同じテニス部に入つていて
練習もよく一緒にやるので
女子の中では一番話しやすいし
仲もいいと思っている。
まあ、いい女友達つてとこだ。

「あはは、ウソですって！」

そんなに否定したら

純がかわいそうですよ」

「あう・・・」

2人は本人の事なんて氣にもかけず
話を続ける。

しかし、あまりにも勝手な会話をするので
そろそろ終らせないとなと思い
立ち上がって僕は言った、

「お前らしい加減にしろよな?
だいたい本人お構いなしつて
どういう事なんだ??」

人権無視かよ」

と、僕が言つてみせると2人は同時に

「あつ、じめーん」

といった。しかもシンクロして。
一瞬の沈黙のあと不思議と
笑いが込み上げて来た。

「お前ら朝から楽しそうじゃんか、

オレだけのけ者か?」

と、そう言って3人だけだつたはずの

教室に突如現れたのは

茅原 標

かやはい ひょう

こいつは初対面のオレにいきなり
話しかけて来た奴だ。
要は福島での友人第1号。
普段はふざけたような奴だが
ここぞという時に本領を發揮する
凄い奴。

1年の時から生徒会をやつていたり
テニス部次期キャプテンと言っていたり
オレなんかには勿体ない友達と言えよう。
そんな標がオレにだけは
いろいろ相談してくれる。
それが密かな自慢だつたりする。

そして今、みんなにいじられているのが
オレ、

神山 純一

だ。この4人は仲が良く
気付くといつも一緒にいる。
オレはそんな空間が大好きだ。
オレだけじゃない。

みんな好きだからこそ

こんな朝早く、

他の誰かが来る前に

学校に来ている。

朝の学活が始まるまで
あと1時間もあるつていうのに。

いつもして今日も1日が始まるんだ。

聞き慣れたチャイムが鳴つた。

その音と共に教室に転がり込んで来たのは

赤坂 シンジ

そういうえば、こいつとは

去年から同じクラスだつたな。

シンジは去年、好きな人がいると

それまで、あまり話した事もなかつた
オレのとこに相談へ来た。

まあ、オレのおかげで

2人はくつついたんだけどな。

と、そんなことを考えてると

シンジより少し遅れて

足音が聞こえて来た。

バタバタバタ

「すみません、道が混んでてつ

入つて来るなりそう言つたのは、

佐橋 恵

こいつがシンジの彼女。

去年は別のクラスだつたから

くつつけるのは大変だつたなあ。

「お前、家近いじゃん！

つてか道は混まねえだろ」

「えへへ、そうだつけ？」

と、オレが妄想にふけつてゐる最中

シンジと恵の会話が聞こえた。

（早く席につけよ・・・）

オレが心中でそう思つてると

案の定、先生が来てしまつた。

入つて來た先生は後ろの

2人を見るなり

「なんだ、また夫婦漫才か？」

なんて言つもんだから

めんどくさい事になりそつだ。

それを見たいたクラスの皆が

2人をはやし立てる。

（やめてくれ、後で

オレにシワよせがくるから）

大体なんで付き合つてゐ事を

隠したりするんだ。

「こんなやつ何でもないよ！」

耳をつんざくような恵の声が、
虚を突いて教室中に響き渡つた。

ほらね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5050d/>

この恋が叶うまで

2010年10月28日04時04分発行